

# 日野口 晃（ひのぐち・あきら）

## 1、プロフィール

画家・俳人、「火山群」米田一穂、「青嶺」木附沢麦青に師事。上十三地区俳句連盟会長。すばる俳句会主宰。青森県俳句賞受賞。俳人協会会員、青森県俳句懇話会理事。

<生没>

1932(昭和7)年11月9日 ~ 2022(令和4)年4月20日

<代表作>

若水を汲むや地底の空ゆらぎ  
跳ぶことも考へてをり水すまし  
心太画想はいつも不意に来て  
凧揚げて赤い切手を空に貼る  
褰月の石ひとつ足す金魚玉

<青森との関わり>

十和田市生まれ。弘前大学教育学部卒。上十三地区俳句連盟の設立、青森県俳句懇話会十和田大会の運営に貢献。

## 2、作家解説

十和田市(旧三本木町)生まれ。弘前大学教育学部美術科卒。十和田市、三沢市の中学校に美術教師として勤務。1970(昭和45)年、十和田市の俳句結社「火山群」に入会。米田一穂に師事。1983(昭和58)年、俳誌「青嶺」に入会。木附沢麦青に師事。退職後、1985(昭和60)年、美術教室「ふおるむ」を設立。弟子の育成の傍ら自身の油彩、彫刻などの制作活動に入る。中央画壇の入選。個展、グループ展を毎年開催。1987(昭和62)年、十和田市文化奨励賞受賞。「火山群」解散後、1991(平成3)年、上十三地区俳句連盟設立。副会長に就任。同年すば

る俳句会設立。主宰となる。平成4年、平成5年、平成7年、青森県俳句懇話会十和田大会一位。1997(平成9)年、十和田市文化功労賞受賞。2002(平成14)年、上十三地区俳句連盟第二代会長に就任。2003(平成15)年、俳人協会東北大会で大会賞を受賞<りんご箱りんごの隅の紅い闇>。2004(平成16)年、俳誌「青嶺」青嶺賞受賞。2005(平成17)年、第55回東奥日報社県南俳句大会(最終回)一位。2005(平成17)年、東奥日報俳壇選者、2006(平成18)年、デーリー東北新聞社俳壇選者を務める。2007(平成19)年5月5日、第一句集『風樹』(青嶺叢書出版)を刊行。2010(平成22)年、渋柿園入会、藤田枕流に師事。2012(平成24)年、渋柿園賞受賞。2013(平成25)年<画仙紙に少しの湿り筆初><大根の花を飾りしモデル台>などの30句を詠んで第15回青森県俳句賞を受賞。2014(平成26)年、青森県俳句懇話会理事。2015(平成27)年12月10日、第二句集『第二楽章』(東奥文芸叢書出版)を刊行。俳人協会会員。2020(令和2)年7月吉日、自筆の絵と短文を書いた画文集『木洩れ日』(岩間印刷出版)を刊行。2021(令和3)年11月9日、第3句集『遊びをせんとや生まれけむ』(中長印刷出版)を刊行。

中学教諭を早期退職後、絵画教室の設立、上十三地区俳句連盟の設立、混声合唱団、少年少女合唱団などの設立に携わり、十和田市の文化の発展に尽力した。